

「教育政策」部会による市・町教委視察から

いしかわ教育総研は、設立以来県内の地教委視察を続けてきており、これまで、10市（旧松任市教委を含む）3町の地教委を訪問している。12年度には、白山市教委、志賀町教委の視察を行った。白山市教委視察は、（旧松任市教委の視察の発展として）県内地教委で30人以下学級の実現などを先進的に進めている。この行政の姿勢を学習し、今後の研究活動に資する意義をもって進めてきた。視察の参加者は、時間帯の関係で「教育政策」部会の議員、退職者である。

7月24日（水）白山市教委を訪問し、教育長などとの懇談、松任図書館（白山市学校図書館支援センター）、東明小学校（学校図書館）の視察を行った。

<白山市の教育行政についての説明と協議>

(1) 市内小中学校の概要 小学校19校、中学校10校、併設2校 (2) 教育予算 一般会計の18.8%の約9.7億円、(3) 教育行政の基本方針 ①学校教育の充実 ア、確かな学力と豊かな心 イ、地域に根ざした特色ある学校の創造、ハ、安全・安心な教育環境をあげられた。

(2) 地域に根ざした特色ある学校の創造として、①少人数学級、授業をいかした教育の充実、②学校図書館の充実をあげている。

(3) 少人数学級は、旧松任市の成果の上に、小学校1年生は30人学級、小学校2～4年生は35人学級の加配を活用している。その効果として、一人一人がきめ細かい丁寧な指導が受けられる。とし、「学力の定着」と「豊かな感性の育成」をはかるとしている。



(4) 学校図書館の充実として、①学校図書館司書を白山市内全小中学校に配置、市正規職員13人、非常勤職員14人で人件費約1億2千万円、②図書整備の推進として、ア、小学校の図書標準達成率125%、中学校図書標準達成率117%である。イ、学校図書館活用状況で一人当たりの貸出数は、この7年間で33.4%→78.5%に、小学校では42.7%→104.3%に、中学校では14.5%→28.9%になっている。支援センターとのネットワーク連携が効果をあげている。

(5) 学校図書館支援センターを設置し、市内全小中学校図書館と公立図書館のネットワーク化を図っている。今、書庫には、約6,500冊の資料（図書）があり、それぞれへの利用実績も上がってきている。「調べ学習機能の充実」をはかり、確かな学びを育む、白山市「調べ学習コンクール」を開催し、その取り組み成果として、文科大臣賞を受賞している。

(6) 白山市子ども権利条例が07年から施行されている。この重点的な取り組みとして、①子どもの権利に関する意識の向上、②子どものための教育相談・居場所の充実、③子どもの意見

表明・参加の促進を図っている。具体的には、ア、白山市子ども会議の設置、イ、子どもの権利に関する行動計画」を策定し、取り組みを推進している。

(7) 視察協議では、①子どもの権利条例に関して、行動計画策定の議論や計画がどのように実践されているか②支援センターと学校を結ぶ配送の問題点などが話し合われた。

＜支援センターと東明小学校図書館の視察＞

ネットワークを生かした学校図書館支援の説明とその効果について感心した。また、市が独自に行っている調べ学習コンクールなどの成果も広げていきたい施策と思う。東明小学校の図書館は、図書室の環境整備、貸出冊数の増加の様子が明確になっており、司書をはじめとした教職員の努力が成果をあげている。

9月27日(水) 志賀町教委を訪問し、教育長などとの懇談、陸上競技場、高浜小学校の視察を行った。町教委視察は4町めである。陸上競技場は写真判定装置などを視察した。

＜志賀町教委の教育施策についての説明と協議＞

(1) 教育目標に、自主、自立、共生をあげ、自ら考え、判断・決定、行動していけるよう援助する。共存の精神を培い、自立心に富んだ人間の育成をかかっている。

学校教育目標への努力点として次の点をあげている。①一人ひとりの個性と創造力を伸ばす。ア、個に応じた指導の充実、活用力の育成、イ、学ぶ意欲や習慣を育てるための家庭学習、読書習慣づけ、ウ、体験的活動を通した総合的な学習など②健康や体力の増進をはかる。ア、基本的な生活習慣の確立と社会性、耐性の育成、イ、体験活動を生かした心の教育、人権教育の推進、ハ、健康や体力を増進する教育、安全教育の徹底、ニ、芸術・文化活動を通じて豊かな感性を、③郷土と世界を愛する人づくりを進める。ア、ふるさとを学ぶ、イ、伝統・文化を理解し尊重する、ウ、外国語活動の充実と国際理解教育の推進、④教職員の教育力向上、活力ある学校、地域に開かれた学校づくりを進める。⑤学校、家庭、地域との連携強化の推進。⑥教育環境整備を推進する。A、耐震化工事の推進、イ、志賀地域の小学校再編整備の推進、ウ、学校施設、設備の有効活用⑦魅力ある学校づくりを支援する。ア、学校司書による読書活動充実への支援など。

(2) 加賀の子とのスキー交流、教育環境整備の推進や魅力ある学校づくりの支援などの施策が進められている。一方、キャリア教育の充実をはかり、地域に残る人材の育成への努力が強調された。教育総研からは、「その場合必要なのは、労働者の権、とくに、若年労働者の権利保障をきちんとする労働教育の推進が必要ではなからうか」と指摘された。原発事故への避難訓練の必要性、その際の避難経路の在り方、方向性などが重要との協議もされた。また、学校図書館図書費の調査などへの協力のお願、学校統廃合の動きについての危惧などが協議された。

<陸上競技場、高浜小学校の視察と協議>

(1) 陸上競技場を視察した。第3種公認競技場更新及び県民体育大会の陸上競技開催に向けての改修工事が実施された。管理棟（フィニッシュコーダー仕様設置など）新築と決勝戦審判団カメラヘッド、アスレティックタイマーの設置、レーンの舗装改修（イタリアより輸入）などが紹介された。



(2) 高浜小学校を視察した。志賀地域の小学校の再編整備として、7校を1校（高浜小学校に2016年開校予定）と計画されている。広い通学区域になり、バス通学になる。

教育目標を「笑顔・声かけ・思いやり」のある学校を創り、意欲的に学びあう児童を育てる」に、☆学びあう学習集団 ☆学力5ポイント増 ☆元気なあいさつ ☆共感的理解を実感 ☆意欲的な家庭学習・規則的な生活習慣を重点課題に、学習指導部、生徒指導部、保健安全部、家庭や地域との連携事業で具体的な取り組みを進めている。

(3) 学校独自で行っている「全学年統一市販テスト」についての協議がされた。全国、県、市で行っているテストに、「学校独自で市販テストの使用のテスト」をすることへの疑問と「テスト横行」の学力主義偏重への危惧についてである。「バラバラの市販テストの社を統一し、同学年同日に行うようにしている」とのことである。また、志賀地域の学校統廃合にからんで行っている小中連携事業として小中一貫教育を展望しながら進めていることに関し、その内実への危惧も表明された。